# 神大の留学生に聞く イタリア編

外国語学部
英語英文学科３年

吉田 智世
梶山　紫
長瀬 絢香
山崎 あい
山口 恭実

ムシ暑い日々が続く6月に私達は、イタリアからの留学生で外国語学部　国際交流文化学科のサラさんとお話をしました。

日本語がとてもお上手でインタビューは全て日本語で行われました。インタビューした編集員の梶山（以下梶）・長瀬（以下長）・吉田（以下吉）はサラさんと同じ授業を受けていたのですが初めはお互い緊張していました。しかし話している内に緊張がほぐれ、賑やかな雰囲気でインタビューを進めることが出来ました。

**サラさん**（以下敬称略）「すみません、文法の間違いがあるかもしれません（苦笑）」

**梶**　「いえ！大丈夫ですよ（笑）」

**吉**　「日本に来るのは何回目ですか？」

**サラ**　「3回目です。1回目は２００８年の8月、2回目は２０１０年の4月から7月、それで今回は1年間の留学です。」

**吉**　「ホームステイをしているのですか？」

**サラ**　「ホームステイではなくて一人暮らしです。国際宿舎という寮のような所です。寮といっても、アパートみたいですね（笑）」

**吉**　「色んな国から来た人が泊まっているのですか？」

**サラ**　「今は私と中国の人、2人だけです。」

**吉**　「初めて日本に来た時も一人暮らしを？」

**サラ**　「いや、その時は友達とゲストハウスっていう所に住んでいました。」

**【日本語の勉強は？】**

**サラ**　「イタリアではカ・フォスカリ大学の大学院（※1）日本語専攻で日本文化や歴史、美術の

勉強をしています。大学でも日本語の勉強をしましたし、お家で日本の音楽を聴いたりドラマを観たりしていました。」

**梶**　「イタリアで人気のある作品はありますか？」

**サラ**　「よしもとばなな、村上春樹、村上龍の作品は人気があります。ちなみに私は村上春樹さんが好きですね。ちょっと難しいんですけど。たしか村上春樹さんはイタリアの文化に興味があるらしいです。日本人の捉え方や考え方がイタリア人と違うので面白いと思います。」

**吉**　「日本文化の勉強はいつから始めましたか？」

**サラ**　「19歳の時から始めたので、今は4年目になりますね。私は今イタリアでは大学院1年生です。日本の大学生だったら4年生。イタリアの大学は3年制で、大学院は2年制なので。」

**【日本に興味を持ったきっかけは？】**

**サラ**　「大体のイタリア人はみんなそうなんですけど、漫画とアニメですね。私は小学生の時に、いとこから『らんま1/2』を借りて、それがきっかけです。それからアニメの『セーラームーン』や『ドラゴンボール』など子供向けのアニメを観て、その主題歌を歌う歌手をリサーチしていました。そこから音楽にも興味を持つようになりました。」

**梶**　「好きな歌手は？」

**サラ**　「子供っぽいかもしれないけれど、『犬夜叉』からV6や、タッキー&翼が好きになりました。KAT-TUNの亀梨和也も好きです。」

**梶**　「あぁ、ジャニーズか！全然子供っぽくないよ！日本の芸能人はイタリアで人気ですか？」

**サラ**　「全然知られていないですね。でも日本に興味がある人にはJロックの芸能人が人気あります。GACKTやthe GazettE・T.M.Revolution・XJapan・L'Arc~en~Cielなどの歌手が。」

**梶**　「ヴィジュアル系というのはイタリアにはない文化なのですか？」

**サラ**　「ないですね。大体コスプレと同じものになっているみたいです。」

**長**　「アニメなどのコスプレ？」

**サラ**　「そうですね。ゴシックロリータはイタリアではもうコスプレの分類で知られています。コスプレではないと思うのですけど(笑)」

**梶**　「じゃあ、ゴスロリとアニメとV系とかが結びついてジャパニーズカルチャーみたいな？」

**サラ**　「そうですね。はい。ヴィジュアル系とジャニーズ、あとAKB48やモーニング娘。も人気があります。私の父も日本に興味があるけど、私とは違って茶道とか生け花とか剣道とかそういうものに興味があります。」

**長**　「正統派な感じですね。」

**サラ**　「着物も帯も何枚か持っているし、私にもプレゼントしてくれたのですけど。」

**吉**　「いいね。お祭りで着られる！」

**サラ**　「あー、でも欧米人には着物が似合わない(苦笑)」

**梶**　「お父さんは日本に来たことは？」

**サラ**　「ありません！でも来てほしいです。」

**【好きな日本の食べ物・苦手な食べ物は？】**

**サラ**　「好きな食べ物はお好み焼き。広島風の！」

**梶・長・吉**　「おお!!」

**サラ**　「苦手な食べ物は、納豆ですね…。食べたことはあるのですけど、ニオイがだめです。でもイタリア人の中では納豆パスタが好きな人が結構いるみたいですね。」

**吉**　「あーおいしいよ(笑)」

**サラ**　「おいしい…ですか？(苦笑)」

**【日本にはどういうイメージを持っていますか？】**

**サラ**　「日本のイメージは…安全！」

一同笑い

**サラ**　「鞄を開けたまま歩いても大丈夫(笑)」

**吉**　「でも安全っていうイメージを持ってくれているのは嬉しいな。大体、海外の人の日本に対するイメージって『富士山』とか『サムライ』とか？」

**梶**「今はあんまり言わなくないか？（笑）」
**吉**「まぁ、昔の（笑）」

**【地元について教えて下さい。】**

**吉**「サラさんはイタリアのどこの出身ですか？」
**サラ**「イタリアの東北にあるフリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア州のウディネっていう小さな街です。地元の人々はフレンドリーじゃないというイメージを持たれていて、タバコを吸ったりワインを飲んだりする若者が最近増えてきているので、そういう点はあんまり好きではないんですが（苦笑）でも街はほんとに大好き！小さくても、芸術的な建物が色々あるし。例えばお城とか、ドームとかが。」
**吉**「ぜひ行ってほしいっていうオススメのスポットはありますか？」
**サラ**「やっぱりお城ですね。お城から見える景色がすごいし。あと、有名なアーティストがライヴを開けるスタジアムもあります。ドームも綺麗だと思う！」
**吉**「ドームってどういう所？」
**サラ**「教会ですね。」
**長**「イタリアの教会ってすごく綺麗そう。」
**サラ**「大学に入ってからはヴェネツィアに住んでいます。ヴェネツィアは、観光するには素敵な街だと思いますが、住むのはちょっと不便かな（苦笑）」
**梶**「どういうところが？」
**サラ**「川が街の中を流れているから、車も自転車も走れないんですよね。でも、観光するならすごく良い街です。芸術はどこにも、芸術のカケラはどこにでもある街だから。劇場も博物館もあるし。観光するのなら秋と冬じゃなくて、他の季節に行ったほうが良いです！秋と冬はアクア・アルタ（※2）っていうのがあるので。水が道の上に上がったりするから…本当に不便ですね（苦笑）」
**梶**「移動は船ばっかりになるんですか？」
**サラ**「いえいえ（笑）長靴を履きます。」
**梶**「あぁ、長靴なんだ（笑）」
**吉**「川の水が溢れちゃうのは雨が多く降るのが原因？」
**サラ**「うーん…たぶんそれもあると思いますが詳しくは知らないです。行くなら春が一番良いですね。夏はすっごく暑くて湿度はほんとに高いから（苦笑）」
**梶**「蒸し暑いの？」
**サラ**「蒸し暑いです。」
**長**「日本のほうがまだ涼しいですか？」
**サラ**「日本も暑いですけど、ヴェネツィアはもっと暑いと思う。でも私は暑がりですから日本の夏もダメです（笑）」
**長**「イタリアの季節の変わり目って結構はっきりしていますか？」
**サラ**「最近はそんなにはっきりしていないね。例えば、2週間春の季節で、いきなり夏！って（笑）」
**梶**「切り替えが早い（笑）秋と冬って寒いですか？」
**サラ**「場所によっても違うんですけど、ヴェネツィアとウディネの秋は、そんなに寒くないですね。冬は結構寒いんですけど。」
**吉**「雪はたくさん降りますか？」
**サラ**「それも場所によってですね。北のほうは結構雪が降る。ヴェネツィアはクリスマスや年末の時だけ降りますね。でも、ウディネはもう少し多く降ります。」

**【地元の大学生と日本の大学生の共通点や相違点は？】**

**サラ**「共通点は、みんな勉強するかな（笑）大学生のラフな雰囲気は大体同じ。違うところは、私の大学は、授業に参加するかどうかは自由で、試験を受けたら授業受けなくても良いんです。日本の大学はやっぱり授業に参加しないと試験も受けられないですね。あと、イタリアでは先生の話はよく聞きます。」

**梶・長・吉**　「（苦笑）」

**サラ**　「いや、ごめんなさい！（笑）」

**長**　「事実だからね（苦笑）イタリアでは、本当に聞きたい人が授業に出ているんですね。」

**サラ**　「でも大体のイタリアの大学生は、学期末試験の前にしか勉強しないね（笑）イタリアの大学にも中間試験があるんですけど、私が通っていた大学にはありませんでした。小テストは、あったとしても成績には関係ない。」

**梶**　「授業中に先生から質問されてシーンとなることって、イタリアには無いですか？」

**サラ**　「直接質問されたら、とりあえず何か答えたほうが良い（笑）」

**長**　「手を挙げて発言するなど積極的ですか？」

**サラ**　「授業によりますね。イタリアの大学生もあんまり目立ちたくないから（笑）よく話を聞きたい人は前のほうの席に座ります。私はなるべく前に座るようにしています。時々、日本語が聞き取れないことがあるので（笑）」

**【日本語の難しさ】**

**長**　「海外の方々にとって、日本語はあんまりはっきりした音の区切りがなくて聞きとりづらいですか？」

**サラ**　「それは日本語が母語じゃないからだと思う。日本語には同じ発音でも違う意味を持つ単語が結構あるから、それは難しいですね。」

**吉**　「以前テレビで、日本語を勉強しているイタリアの方が、『グルグル』や『キラキラ』など2回連続する音が面白いと話していました。イタリア語には無いんですか？」

**サラ**　「無いですね。面白いですけど、覚えにくいです（笑）音が似ていても使い方が違うので分かりにくいかな。『ピカピカ』と『キラキラ』など（笑）」

**長**　「日本語は擬音語が多いからね。新しいというか、勝手に作られた言葉もあるからね。」

**梶**　「例えば『もふもふ』。なんとなく分かるけど（笑）」

**吉**　「最近だよね、そういうのって。」

**長**　「たぶん感覚的なものなんじゃない？」

**【イタリアのイケメンと日本のイケメン】**

**サラ**　「逆ですね。本当に真逆だと思う（笑）イタリアでいうカッコイイ人は、ハゲ。…あれ？ハゲ？（笑）」

**梶・長・吉**　「ハゲ!?」

**吉**　「ヒゲ？」

**サラ**　「あっそう!!ヒゲ!!」

一同笑い

**サラ**　「あああごめんなさい（笑）」

**長**　「そうか、ヒゲが生えている人か。」

**梶**　「ハゲが生えている…」

**長**　「ハゲは生えてないから!!（笑）」

～気を取り直して～

**サラ**　「ヒゲが生えていて、背が高くてガッシリした筋肉質の人がイタリアでいうイケメンです。正しいかどうかは分からないけど、日本では真逆…ですよね？」

**長**　「中性的でほっそいよね（笑）男らしいというよりかは、綺麗っていう人が人気ですよね。」

**サラ**　「うん。イタリアでは、女の子を抱きしめて守れる感じの人が人気。」

**梶**　「イタリアで人気のイケメンはいますか？俳優さんなどで。」

**サラ**　「イタリア人の俳優だったら誰が有名かなあ。アメリカ映画のほうが流行っているからアメリカの俳優さんのほうが人気はあると思う。Özpetek（オズペテク）（※3）という私の好きな映画監督がいるんですけど、彼の作る映画は大事なテーマの映画が多いですね。」

**梶**　「日本だと人気のある芸能人が映画に出るよね。」

**サラ**　「渡辺謙はイタリアでも知られていますね。声が大好き！（笑）『ラストサムライ』も、『インセプション』も観ました。」

**【日本に来て驚いたことは？】**

**サラ**　「授業中に学生が靴を脱いでいること（笑）」

**長**　「えぇ!?」

**サラ**　「あれ？脱がない？（笑）」

**吉**　「私、見たことある。もう本当に靴脱いじゃって（笑）」

**長**　「本当？見たことないなぁ。」

**梶**　「私、脱ぐ派なんだけど…。」

**長**　「いた!!ここにいた!!（笑）え、どういうこと？」

～梶山実演中～

**長**　「いやあああ!!（笑）えー…。」

**吉**　「イタリアでは見ない？（笑）」

**サラ**　「見ないね（苦笑）イタリアでそういうことをすると、先生を尊敬していないっていう態度になっちゃう。」

**長**　「梶山さん大変失礼なことをしてる（笑）」

**サラ**　「イタリアではそうなんだけど、日本ではどうなんだろう？（笑）」

**梶**　「失礼です。」

**吉**　「認めた！（笑）」

**長**　「最初からサンダル履いて来いよ（笑）」

**【イタリアと日本での失礼な態度・ジェスチャー】**

**梶**　「ピースを裏側にすると失礼にあたりますよね？」

**サラ**　「たしかにアメリカではそれは失礼になりますけど、イタリアでは特に意味はありませんね。以前、日本のミュージカルで見たジェスチャーがあるんですけど、相手を見ながら自分の片腕の上に片手をバシン！と乗せて向けていました。これはイタリアにある失礼なジェスチャーに似ていたから、日本でもそうなのかな、って思ったんですけど。（※図参照）」

サラさんが疑問に思ったジェスチャー
（作・山崎）

**吉**　「えー、何だろう？イタリアではどういう意味になるんですか？」

**サラ**　「結構失礼な意味があります。お前のことなんか大事じゃないから話を聞きたくない、関係ない、っていう意味です。」

**吉**　「どうでもいい、っていう感じですか？」

**サラ**　「どうでもいいよりも、もっと悪い。あっち行け!!みたいな意味です。」

**梶**　「日本でやってもそういう意味はなさそうだけどね。かかってこい！に似てる。」

**長**　「それだと挑発してるよ（笑）」

**梶**　「日本ではジェスチャーよりも、言葉で言うほうが多いよね。」

**サラ**　「でもあんまり日本語は悪い単語はないんじゃ？聞いたことないよ（笑）」

**梶**　「悪い語彙は豊富ですよ。ジェスチャーの文化がないからね。だから、『この国の人にはこれをやってはいけない』っていうのがあまり分からないんです。」

**サラ**　「ふうん。」

**長**　「日本では敬語ができないと失礼なんじゃない？自分を落として相手を上げる、っていう謙譲語はイタリア語にもありますか？」

**サラ**　「イタリア語では相手を上げる、しかない。相手によって使う敬語のレベルが違って、大きく分けると3つあります。」

梶「例えば先生だと、どのレベルですか？」

**サラ**　「先生は、1と2の間です（笑）先生によって変わりますね。生徒と距離が近い先生もいるし、すごく距離がある先生もいるから。」

**梶**　「完全に2は誰ですか？」

**サラ**　「知らない人です。すごく尊敬している人や偉い人は3です。」

**【日本に来て大変だったことは？】**

**サラ**　「日常生活はちょっと大変（笑）リムーバーを知らなくて、電子辞書で調べて店員さんに『すみません、これを探しているんですが』って見せたことがあります（笑）電子辞書はいつもバッグにあります。あと、物価は結構高いですね（苦笑）ですから、安いお店を探すのにチューター（※4）にメールで訊きます。」

**梶**　「チューターの方がサポートしてくれるんですか？」

**サラ**　「はい。例えば区役所に用事がある時や、教室がどこにあるのか分からなかった時も。この間も郵便局に用事があったんですけど、よく分からなくてチューターに訊きました（笑）」

**梶**　「一人暮らしだと事務処理だけでも大変ですからね。」

**吉**　「私も分からない時がある。」

**サラ・梶・長**　「（笑）」

**【日本以外で行ったことのある国・今後行きたい国は？】**

**サラ**　「フランス、オーストリア、イギリス、スペインに行ったことがあります。大体ヨーロッパですね。」

**梶**　「ヨーロッパは国が近いから行きやすいのかな？」

**サラ**　「今はユーロがありますからね。しかもヨーロッパ内はパスポートが必要ないんです。」

**梶・長・吉**　「いいなあ!!」

**サラ**　「アジアでは日本が初めてです。いつかインドやアイルランドにも行ってみたいですね。」

**【将来の夢は何ですか？】**

**サラ**　「日本語からイタリア語にする翻訳者になりたいです。すごく難しいんですけど頑張りたいです。あとは、イタリア語の先生にもなりたいですね。」

**吉**　「翻訳したい本はありますか？」

**サラ**　「村上春樹の『羊をめぐる冒険』という本です。英語でもあまり翻訳されていないからやってみたい。他にも近代の作家の本も。私の大学には『源氏物語』の翻訳をしているグループが2つあったんだけど、2つともやめちゃったらしくて…。」

**吉**　「難しいよね。今は使われていない言葉で書かれているし。」

**梶**　「シェイクスピアが難しいのと一緒だね。」

**サラ**　「でも『源氏物語』は現代人にも分かるように谷崎潤一郎が現代日本語訳に翻訳していますし、漫画や映画もあるみたいですね。」

**梶**　「『十二単』などを説明するのは大変ですよね。授業でやったけど、『白い足袋を履く』っていうのが、英語だと『白い手袋をつける』って翻訳されていましたし。」

**サラ**　「『着物』は『Kimono』って翻訳してもイタリア人にも通じます。ただ、『障子』が伝わらなくて『窓』という意味の単語を使って翻訳されていました。俳句と短歌の翻訳も難しいです。もちろん直訳は出来るんですけど、そうすると原文の雰囲気がなくなってしまうんです。」

**長**　「綺麗な英詩を日本語に翻訳するのも難しいです。」

**【大震災と原子力発電所について】**

**サラ**　「イタリアでは原子力はあまり受け入れられていません。それは自然ではなくて、危険だから。」

**長**　「地震はありますか？」

**サラ**　「あまりありません。イタリアの建物は地震に弱いんです。数年前に大きな地震があったんですけど、大きいといってもマグニチュード6ぐらいでした。それでも災害の大きさは日本の東北地方と同じくらいありました。3月11日はまだ日本にいなくて、母と一緒にミラノにビザを取りに行っていました。日本大使館で生の映像を見ていました…。」

**梶**　「お母さん心配しませんでした？」

**サラ**　「もちろん心配していました。両親、親戚、友達、みんなが日本に行かないで、って言っていたんですが、私はどうしても行きたくて。インターネットで色々と調べて核から身を守るものを買って日本へ行きました。」

**梶**　「日本に来て日本人が落ち着いていて驚きませんでした？」

**サラ**　「いや。やっぱり、って思いました（笑）日本人は地震に慣れているんだな、と。福島の原子力発電所のことは心配しましたが、すごいと思いました。節電もできるし、電車が止まってもすぐに走れるようになったし。壊れた道路が2日後には直っているのを写真で見ました。そういうのを見て、やっぱり、って思いました。」

**【日本の政治について】**

**サラ**　「よく分からないのが、総理大臣の引退について。だって総理大臣だけのせいじゃないですよね？」

**梶**　「そう、正しいですね（笑）」

**サラ**　「外国人からしたらそれが分からないんです。もし本当にその人が悪いんだったら、引退するんじゃなくて、何かしてほしい。」

**長**　「今は何かあったら殆ど投げ出すかたちに近いからね。人が変わっても特に何も変わらない、っていうのが現状なんだよね。」

**サラ**　「あ、ちなみに日本は選挙参政権が与えられるのは20歳からですよね？イタリアは18歳からです。」

**梶・長・吉**　「おお！」

**サラ**　「イタリアでは成人が18歳で、お酒も運転も18歳から。小さいバイクだったら14歳からです。」

**梶**　「18歳から成人って早いと思います？よく日本では20歳の成人は早いか遅いか、という議論があるんです。」

**サラ**　「そうですか？イタリアの高校は5年制で、18歳は卒業する歳だから私はちょうど良いと思います。」

**【最後に、日本にいる間にやってみたいことはありますか？】**

**サラ**　「もう一度、関西に行ってみたいですね。前に行ったことはあるんですけど、そんなに長くはいられなかったので、もう少しゆっくりしてみたいです。関西に限らず、日本の色んな場所を訪れたいですね。」

**【取材を終えて】**

**（梶山）**今回のインタビューを通して、外国の人が日本の物や人を知っているということ、そして、日本のことを好きでいてくれるということを改めて知って嬉しかったです。サラさんは日本の文化や文学にとても詳しく、私たち日本人の方が教わることも多かったです。お互いの国の違うところも魅力的ですが、同時に、それぞれの国の若者の話になると、似たようなことを考えて、似たことをしていることを知って興味深く思いました。

**（長瀬）**日本のイメージが、古典的な物だけでないことが聞けて、日本の文化は様々な形でちゃんと広がっているんだと思いました。サラさんと、音楽の話等で仲良くなれたのも嬉しかったです。日本で個性的だと思われている物は、外国から見ても目立つ物になるので、誇れるように大切にしなければと感じました。

**（吉田）**私たち日本人でも知らない日本の顔が見えました。イタリアから見た日本・日本から見たイタリアの両面を知ることができて良かったです。異文化の中で生きる日本文化がこれからも生き続けてほしいと思います。また私たちも日本文化を守っていかなくてはと思いました。今回の取材で国際交流にもっと興味を持ちました。イタリアに行きたい！

【注釈】

（1）カ・フォスカリ大学大学院
イタリアのカ・フォスカリにある大学院。

（2）アクアアルタ（アックア・アルタ）
イタリア語表記 acqua alta
高潮現象。多い時には120㎝以上水位が上がる時もある。
<http://ameblo.jp/his-rome/entry-10173137525.html>

（3）フェルザン・オズペテク
1959年にトルコ共和国のイスタンブールに生まれ、1976年にイタリアのローマへ行き、映画制作を学ぶ。
公式サイト
<http://www.ferzanozpetek.com> 2011/10/13

（4）チューター
留学生に日常生活や大学生活などのサポートする人。

国情報

【正式名称】イタリア共和国
【首　都】ローマ
【面　積】30万1328平方キロメートル
（日本の約80％）
【人　口】5789万人
【時　差】日本時間よりも8時間遅れ

〈ウーディネ〉
【面　積】55・81平方キロメートル
【人　口】9万6750人

【交　流】
イタリアを訪問する日本人は2008年に32万2千人。日本を訪問するイタリア人は、2008年は56243人、2009年は59607人と増加している。

【出　典】
ウィキペディア
http://www.enit.jp/general/index.html
http://www.it.emb-japan.go.jp/index_j.htm
http://www2m.biglobe.ne.jp/ZenTech/world/infomation/q012_map_italy.htm